



02

これからの
中央博物館

2-1 中央博物館の概要

設置目的

県民の自然と歴史に関する知的需要にこたえ、生涯学習に貢献するとともに、科学の進歩に寄与する
(中央博物館要覧(平成16年)より引用)

テーマ(専門分野)

自然と歴史

特徴

国内有数規模の多彩な専門性をもつ総合博物館であり、野外博物館として生態園を併設する。現在は県内各地に3分館(自然系1館、人文系2館)を有し、県南地域ではフィールド・ミュージアム活動を実施している。

経緯

- 平成元年:本館開館
- 平成11年:分館海の博物館開館
- 平成15年:房総の山のフィールド・ミュージアム活動開始
- 平成18年:総南博物館と大利根博物館をそれぞれ大多喜城分館、大利根分館として再編
- 令和2年:千葉県立博物館の今後の在り方 策定(P.5掲載)
- 令和5年:千葉県立中央博物館機能強化実施方策 策定

参考

千葉県立中央博物館機能強化実施方策(令和5年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、中央博物館の強化すべき機能を次の3つに整理しました。

- 総合博物館としての高度化:自然系、人文系共に強く、両者が連携した活動を展開
- 地域連携ステーション:県内博物館の拠点となり、地域連携や地域振興に貢献
- アーカイブセンター:資料のデジタル化の促進や一元管理の実現



2.2 目的とテーマ

第1章で整理した「これからの県立博物館」を踏まえ、中央博物館の目的と今後取り扱うテーマ(専門分野)を以下のとおり改めます。

目 的

従 来

県民の自然と歴史に関する知的需要にこたえ、生涯学習に貢献するとともに、科学の進歩に寄与する

※中央博物館要覧(平成16年)より引用

改定後

県内博物館の中心となり、自然と歴史、文化に関する県民の知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献し、ひいては科学の進歩・社会の発展に寄与する

テーマ(専門分野)

従 来

自然と歴史

改定後

自然と歴史、文化

自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化することで、総合博物館としての機能を強めるため、従来のテーマである「自然」と「歴史」に、その土地の自然と歴史によって紡がれる「文化」を追加。



これからの目的とテーマ（専門分野）を踏まえ、以下の構成で今後の運営指針を策定します。

基本コンセプト

目指す姿

取組の方針

事業展開（10年間）

本計画の推進体制

実施計画

本計画を踏まえ、5年間の具体的な取り組みについて整理した計画を策定します。

進捗管理・見直し

実施計画の実施状況について、内部評価を行うとともに外部有識者による評価を行います。また、基本コンセプト等についても社会情勢の変化に対応できるよう柔軟に見直しを行っていきます。

施設整備の計画

本計画を踏まえ、常設展示の見直しや博物館資料を収蔵するスペースの確保に必要な施設の整備計画を策定します。



CHIBA

多彩な特徴をもつ 半島ちばの 未来を切り拓く

川と海に縁どられ、かつては本州から隔てられた島状だったこともある千葉。古くから川と海を通じた他地域とのつながりや交流があり、現在でも首都圏で世界につながる海と空の窓口を持つ一方、房総半島を中心に豊かで多様な自然と独自の文化が形成され、グローバルとローカルの二面性をもちあわせています。多彩な特徴をもつ国内有数の半島ならではの千葉の未来を、自然と歴史、文化の視点から県民とともに拓き、科学の進歩・社会の発展にも寄与することで国内外の博物館を牽引する存在を目指します。

JAPAN

WORLD

2-3-2 目指す姿

千葉の自然と歴史、文化を 見つけ、伝え、残す博物館

県内博物館の中心となり、県民とともに千葉の自然と歴史、文化に関する資料を集め、県民の宝として未来につなぎ、様々な研究を行うことで多彩な半島ちばを見つけてます。



県民が郷土愛や誇りを感じられるよう千葉の自然と歴史、文化についてわかりやすく発信し、人々に千葉の魅力を伝えていきます。

次世代の学びに応えるとともに未来のリーダーを育み、千葉の自然と歴史、文化を県民とともに守っていきます。



千葉から 世界に拓く博物館

海と空の玄関でもある千葉の特性を活かし、様々な主体とつながりながら、千葉から自然と歴史、文化の「おもしろい」を千葉から国内外に発信します。



最先端の視点で活動し、科学と社会の発展に貢献するとともに国内外の博物館を牽引し、県民の誇りとなる博物館となります。



国際的な潮流を踏まえた学術研究等を行い、人々に開かれたシンクタンクとなることで、県民が様々な世界とつながり、活躍するための足がかりになります。



2-3-3 取組の方針

目指す姿を実現するため、2つの価値観を大切にした上で、取組の方針を「つながり」の視点で5つに整理し、この方針をもとに収集・保管、調査・研究、展示・教育普及等の博物館活動を行っていきます。

大切にする価値観

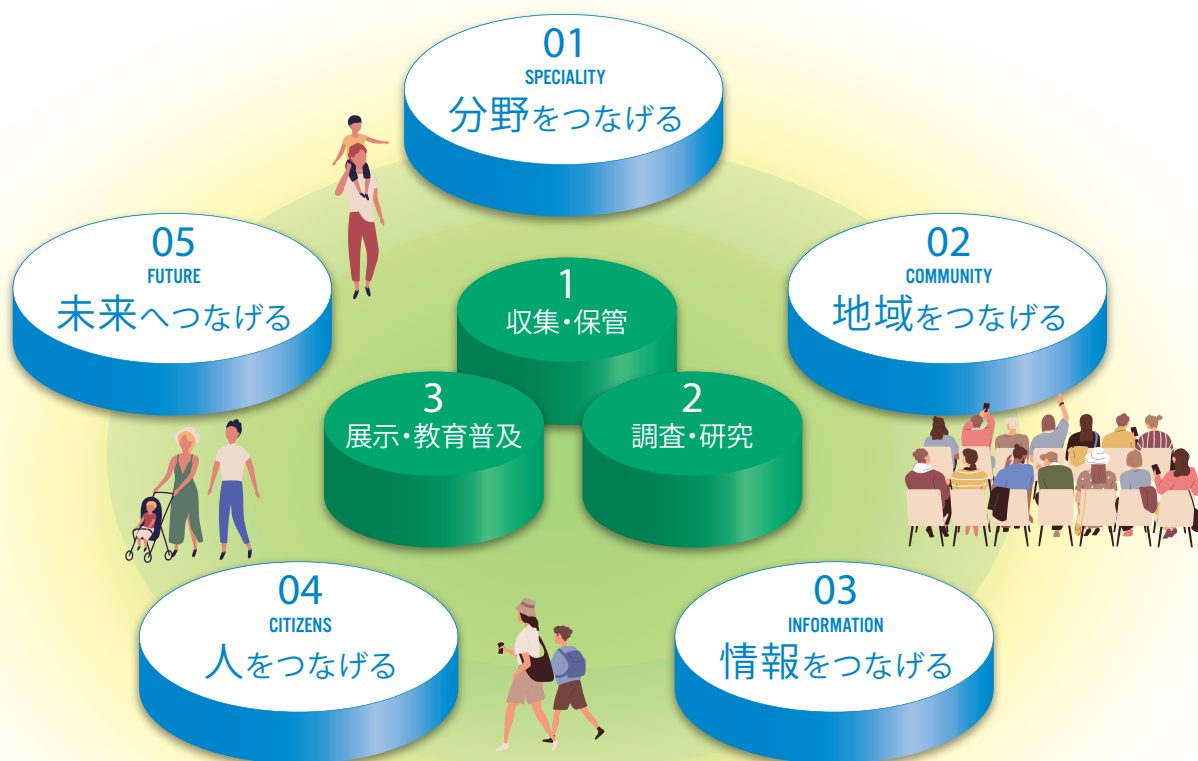
資料やフィールド活動を大切にする

- ・常に当事者として意識を持ち、自ら現場へ足を運び、資料を集め、研究します。
- ・人々と資料や現場をつなぎ、自然と歴史、文化を体感できる機会を提供します。

大切にする価値観

中央博物館からつながりの輪を広げる

- ・デジタル技術の活用や様々な主体との連携等により、時間や場所に制限されず、つながることができる環境をつくります。
- ・多様な活動を展開するため、国内外の様々な資源や主体とつながりを大切にします。



2-3-4 取組の方針に沿った事業展開

1 収集・保管

取組の方針	今後の事業展開(10年間)
<p>SPECIALITY 01 分野をつなげる</p>	
①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	①自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料も収集保管 ①現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有… 連携
②広域的な視点での活動	②特定の分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集保管 …… 振興 ②科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの資料の収集保管
<p>COMMUNITY 02 地域をつなげる</p>	
①県域を俯瞰した活動	①県域を俯瞰した視点での収集保管 …… 振興
②他機関との連携・支援	②非常時の文化財・博物館資料の救済の実施 …… 連携 ②国内外機関との交流による収集強化 …… 連携
③博物館と地域をつなげる	③県の施設の資料情報を一元管理するとともに、資料情報の集約による新たな地域資源を把握 …… 振興 デジタル
<p>INFORMATION 03 情報をつなげる</p>	
①成果の迅速な公開・発信	①博物館資料情報のデジタル化等を推進 …… デジタル ①外部システム(研究者間資料情報共有システム等)との連携 …… 連携 デジタル
②千葉の魅力にふれる環境づくり	②収蔵資料や資料情報へのアクセシビリティの充実・高度化 …… 振興 デジタル
③資料情報の一元化	③県の施設の資料情報の収集・管理 …… 連携 デジタル
<p>CITIZENS 04 人をつなげる</p>	
①県民参加・協働型の活動	①個人や市民団体、ボランティア等と協力した収集保管体制の確立… 連携
②県民ニーズへの対応	②県民にとって財産となる資料の収集 …… 振興 ②個人や団体の所有資料の情報収集と受入れ …… 連携
③新たな協働を生む仕組みづくり	③学術的価値・資料価値の高いコレクションの充実
<p>FUTURE 05 未来へつなげる</p>	
①これまでの成果の活用・継承	①収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ …… 連携 デジタル
②長期的な視点での活動	②中長期的な収集計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保 ②自然系、人文系それぞれの特性を活かした全体的なコレクションポリシーへの見直し、コレクションポリシーに基づく収集
③人材育成	③職員の資料管理等専門知識の習得、研修等の実施・参加、引継計画の立案

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

2-3-4 取組の方針に沿った事業展開

2 調査・研究

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

SPECIALITY 01 分野をつなげる

- | | |
|------------------------------------|---|
| ①自然科学、人文科学
及び両分野が連携した
視点での活動 | ①自然科学、人文科学等個別分野の研究に加え、両分野の連携による研究機能の強化……………連携 |
| ②広域的な視点での活動 | ②専門領域、特定の地域にこだわらない広域的な研究……………連携 振興
②科学の進歩に寄与する全国レベル、国際レベルの研究……………連携 振興 |

COMMUNITY 02 地域をつなげる

- | | |
|-----------------------------|--|
| ①県域を俯瞰した活動 | ①県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造……………振興 |
| ②他機関との連携・支援
③博物館と地域をつなげる | ②国内外機関との連携による全国レベル、国際レベルの研究推進……………連携
②③共同研究等の実施 |

INFORMATION 03 情報をつなげる

- | | |
|---------------------|--|
| ①成果の迅速な公開・発信 | ①研究成果の発信・還元機能の強化(報告書や論文のデジタル化等)……………デジタル |
| ②千葉の魅力に
ふれる環境づくり | ②レファレンスサービス強化のため、情報発信手段等を研究……………振興 デジタル |
| ③資料情報の一元化 | ③資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査 |

CITIZENS 04 人をつなげる

- | | |
|---------------------|---|
| ①県民参加・協働型の活動 | ①個人や市民団体と協力した調査研究体制の確立……………連携 |
| ②県民ニーズへの対応 | ②県民等による自主的な研究活動への支援……………連携 振興 |
| ③新たな協働を生む
仕組みづくり | ③県内外の研究機関等との協働を生む専門性の高い研究の実施……………連携
③県民や他機関等多様な主体と協働した研究活動の推進……………連携 |

FUTURE 05 未来へつなげる

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| ①これまでの成果の
活用・継承 | ①これまで実施してきた研究成果の継承
①組織的視点での研究計画の立案 |
| ②長期的な視点での活動 | ②最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備 |
| ③人材育成 | ③職員の専門技術の向上、研修の実施・参加、引継計画の立案 |

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

2-3-4 取組の方針に沿った事業展開

3 展示・教育普及

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

SPECIALTY 01 分野をつなげる

- | | |
|------------------------------------|---|
| ①自然科学、人文科学
及び両分野が連携した
視点での活動 | ①人文系展示や講座の充実、充実した自然系の強みを活かした展
示や講座、レファレンスサービスの実施
①両分野が連携した総合的視点の展示や講座、レファレンスサービ
スの実施 連携
①自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施(生態園や
フィールド・ミュージアム等)..... 連携 振興 |
| ②広域的な視点での活動 | ②専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座の実施... 連携 振興 |

COMMUNITY 02 地域をつなげる

- | | |
|---------------------------------|--|
| ①県域を俯瞰した活動 | ①県内各地の自然と歴史、文化を紹介する展示や、県内各地に足を
運びきっかけとなる講座の実施 振興 |
| ②他機関との連携・支援
③博物館と地域を
つなげる | ②③県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強
化、出前展示・行事の実施 連携 振興
③他館と合同、共催の展示や行事の立案・実施 連携 振興 |

INFORMATION 03 情報をつなげる

- | | |
|-------------------------------------|---|
| ①成果の迅速な公開・発信
②千葉の魅力を
ふれる環境づくり | ①②研究や資料収集等の成果の情報を迅速に発信 デジタル
①②国内外へ情報をわかりやすい形で発信 デジタル
①②誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実... デジタル
①②県内博物館ネットワークを活用した情報発信 連携 振興 |
| ③資料情報の一元化 | ③県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるような形で公開... 連携 デジタル |

CITIZENS 04 人をつなげる

- | | |
|---|--|
| ①県民参加・協働型の活動
②県民ニーズへの対応
③新たな協働を生む
仕組みづくり | ①個人や市民団体、ボランティア等と協力した活動(フィールド・
ミュージアム等) 連携 振興
②時事的話題やニーズに即応した展示等の充実、次世代の学びに
応える活動 振興
①②③年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽し
め、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施、レファレン
スサービスの充実 振興
②③専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施 連携 振興
③国内外の人材や施設をつなぐ活動(学芸員と県民、県民同士等).... 連携 |
|---|--|

FUTURE 05 未来へつなげる

- | | |
|----------------------|---|
| ①これまでの成果の
活用・継承 | ①収蔵資料や研究成果を活用した展示や教育普及事業、成果を
わかりやすくまとめた資料の作成、レファレンスサービスの強
化、各地域の魅力の発信 振興 |
| ②長期的な視点での活動
③人材育成 | ②中長期計画の整備
②③未来を考えるきっかけとなる事業の実施
②③次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援... 振興
③博物館に携わる人材の育成とスキルアップの場になる 連携 振興 |

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

2-3-5 運営体制

資料・収集、調査・研究、展示・教育普及を支える運営体制について、取組の方針ごとに以下の通り整理します。

取組の方針	今後
<p>SPECIALITY 01 分野をつなげる</p>	
①自然科学、人文科学 及び両分野が連携した 視点での活動	①様々な専門分野に横断的に対応できるような体制づくり
②広域的な視点での活動	②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA ^{**1} 連携(隣接予定の複合施設との連携)体制の構築 ②博物館事業のDX化を推進する体制づくり
<p>COMMUNITY 02 地域をつなげる</p>	
①県域を俯瞰した活動	①県内博物館のネットワークの拠点となるための体制づくり
②他機関との連携・支援	②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA ^{**1} 連携(隣接予定の複合施設との連携)等の他機関や地域との連携をとれる体制の確立
③博物館と地域をつなげる	③複数機関との同時連携体制の構築 ③学校や社会教育施設との連携、県民や企業等との協力体制の構築
<p>INFORMATION 03 情報をつなげる</p>	
①成果の迅速な公開・発信	①最新技術を取り入れることができる体制の整備
②千葉の魅力に ふれる環境づくり	②博物館と人々がつながりやすい環境づくり (情報共有サービスの向上、オンラインツールの活用等)
③資料情報の一元化	③県内の他機関との情報共有のための連携体制の構築
<p>CITIZENS 04 人をつなげる</p>	
①県民参加・協働型の活動	①県民からの情報提供ツールの構築、人々が利用しやすい施設の整備
②県民ニーズへの対応	①②③ボランティアや市民団体等との連携体制の強化
③新たな協働を生む 仕組みづくり	②③誰もが利用できるアクセシビリティの向上(情報共有、レファレンスサービスの充実等) ③国際交流も視野にいた幅広い連携体制の整備
<p>FUTURE 05 未来へつなげる</p>	
①これまでの成果の 活用・継承	①施設の整備(老朽化した施設の改修、防災・防犯機能の高い収蔵庫等の充実、アメニティ設備の充実等)
②長期的な視点での活動	②非常時の博物館資料の救済体制の強化、施設の整備 ②社会情勢の変化に対応できる設備(可変性が高く、柔軟性のある展示等)の整備
③人材育成	③事務系を含む職員育成等による持続的な運営体制の構築と市町村立等博物館等への支援体制の確立

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

※ 1 M=Museum(博物館)、L=Library(図書館)、A=Archives(文書館)